

# 薬用植物園だより

2025年

1月

コバルトブルーの実を見つけて幸せな気分

ジャノヒゲ (ユリ科 APG:キジカク科)

*Ophiopogon japonicus* Ker-Gawl.

部位	根の膨大部
生薬名	麦門冬 (バクモンドウ) <b>局方収載</b>
成分	オフィオポゴニン B (ステロイドサポニン)
薬理	鎮咳作用、止渴作用、去痰作用
薬能	滋陰薬
漢方	麦門冬湯、竹茹温胆湯、温経湯、釣藤散

日本、中国、朝鮮半島などに分布する多年草。乾燥～湿潤に適応でき、栄養繁殖でよく増えます。グランドカバーや盛り土の縁、植込みの境界に植えられているリュウノヒゲも同じもので、葉が短いものが好まれています。お庭に機能面だけで植栽されていることが多いのですが、私はこの植物が大好きで研究植物にもしています。秋から冬に、葉をより分け、株元に宝石のようなコバルトブルーの果実（正確には種子）を見つけた時は、幸せな気分になります。薬用部位は、根に形成される膨大部で麦門冬と呼び、大変重要な生薬で鎮咳作用などを期待して漢方薬の麦門冬湯などに配合されます。漢方的には、肺に潤いを与えて咳を鎮めるため、高齢者やカゼの回復期の乾燥したしつこい咳に力を発揮します。子どもの時に遊んだコバルトブルーの実をつける植物が薬として重要だと知った時の感動は、ゲーム世代の子供たちには無いのかもしれませんが。

ヤツデ (ウコギ科)

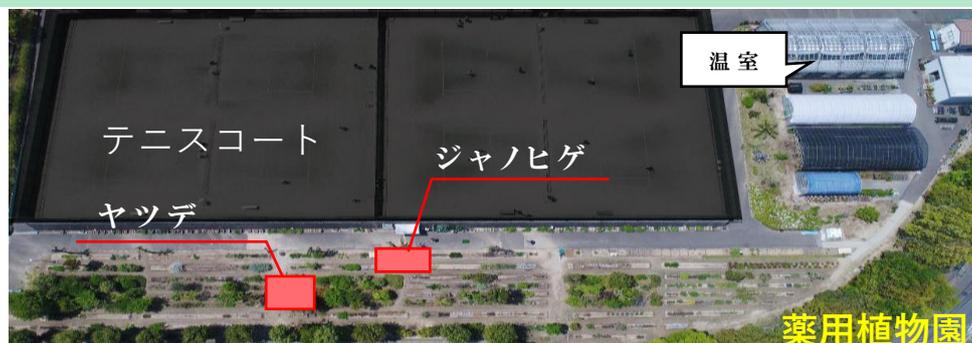
*Fatsia japonica* (Thunb.) Decne. et Planch.

部位	葉
生薬名	八角金盤 (ハッカクキンバン、中国名として)
成分	$\alpha$ -、 $\beta$ -ファットシン $\alpha$ -、 $\beta$ -Fatsin (オレアナン型トリテルペンサポニン) など
薬理	鎮咳去痰作用、抗炎症作用
用途	去痰薬 浴用剤として関節リウマチ、血行改善などに

天狗の団扇で魔除け!?



日本固有種で、本州（茨城以南の太平洋側）、四国、九州、沖縄に分布する常緑低木。分裂した大きな葉から別名「天狗の団扇」とも呼ばれ、邪気払いを期待して庭木でよく見かけます。12月頃から枝の先端に乳白色の花が球状に集まった形で見事に咲き始めます。雄性先熟で雄性期から雌性期に変化していきます。また、「八つ手」が和名の由来と思われそうですが、実際には7か9（奇数）に分裂していることが多いので花と一緒に観察してみても如何でしょうか。薬用としては、葉の抽出エキスが去痰薬として用いられます。また、民間的に葉を入浴剤として、リウマチなどにも使用されました。しかし、毒性の報告もあり、個人での使用はおすすめしていません。



ホームページでも  
ご覧いただけます